

第 8 回 応仁の乱から戦国時代へ

§ 1 応仁の乱

強大な権力を握った 3 代将軍足利義満の死後、各地の守護大名が力を伸ばしていった。6 代将軍足利義教が有力な守護大名に暗殺された。また、各地で支配に対する抵抗（一揆）が起こった。これらの混乱が続く中で、幕府と将軍の支配は衰えていった。一方で、有力な守護大名同士の勢力争いが激しさを増していった。

そのような中で第 8 代将軍となった足利義政は将軍権力の強化を目指した。しかし、失敗し、政治に対する関心を失った。そのため社会の混乱はさらに拡大した。そして、義政が次の将軍に指名した弟・義視と、指名した後に生まれた子供（義尚）との間で後継問題が起こった。それぞれが有力な守護大名たちと結びついた結果、幕府を二分する大きな争乱となった。その争いを応仁の乱という。

§ 2 戦国時代

応仁の乱は京都を中心に 11 年間も続いた。そのため、京都の大半は焼け野原となり、幕府と将軍は全国を支配する力を失った。その一方で争いは全国各地に広がり、その中で下の位の者が実力で主人（守護大名など）を倒し、自ら直接土地と民衆を支配するようになった。下の位の者が上の位の者に打ち勝って権力を手に入れることを下剋上（下克上）という。下剋上の争いが続いた約 100 年間は戦国時代という。この時代に自らの力で領国を支配した大名を戦国大名とよぶ。

北条早雲や毛利元就など下剋上によって戦国大名となった例が多い一方で、今川氏や島津氏のように守護大名がそのまま戦国大名となった例も存在する。

戦国大名は自らの領地の支配（領国支配）が安定するように産業を盛んにしたり、地侍を家臣に加えるなどして軍事力を強化した。そして、城のまわりに家臣や商工業者を集めて住まわせることで城下町を形成した。自分が支配している領国内に適用される分国法という法律をつくる戦国大名もいた。

第8回 おうにん らん せんごくじだい 応仁の乱から戦国時代へ

§1 おうにん らん 応仁の乱

強大な権力を握った3代将軍足利義満の死後、各地の守護大名が力を伸ばしていった。6代将軍足利義教は、有力な守護大名に暗殺された。また、各地で支配に対する抵抗(一揆)が起きた。これらの混乱が続く中で、幕府と将軍の支配は衰えていった。その一方で、有力な守護大名同士の勢力争いが激しさを増していった。

そのような中で第8代将軍となった足利義政は将軍権力の強化を目指した。しかし、失敗し、義政は政治に対する関心を失った。そのため社会の混乱はさらに拡大した。そして、義政が次の将軍に指名した弟・義視と、指名した後に産まれた子供(義尚)との間で後継問題が起こった。それぞれが有力な守護大名たちと結びついた結果、幕府を二分する大きな争乱となった。その争いを応仁の乱という。

§2 せんごくじだい 戦国時代

応仁の乱は京都を中心に11年間も続いた。そのため、京都の大半は焼け野原となり、幕府と将軍は全国を支配する力を失った。その一方で争いは全国各地に広がり、その中で下の位の者が実力で主人(守護大名など)を倒し、自ら直接土地と民衆を支配するようになった。下の位の者が上の位の者に打ち勝って権力を手に入れることを下剋上(下克上)という。下剋上の争いが続いた約100年間は戦国時代という。この時代に自らの力で領国を支配した大名を戦国大名とよぶ。

北条早雲や毛利元就など下剋上によって戦国大名となった例が多い一方で、今川氏や島津氏のように守護大名がそのまま戦国大名となった例も存在する。

戦国大名は自らの領地の支配(領国支配)が安定するように産業を盛んにしたり、地侍を家臣に加えるなどして軍事力を強化した。そして、城のまわりに家臣や商工業者を集めて住まわせることで城下町を形成した。自分が支配している領国内に適用される分国法という法律をつくる戦国大名もいた。

Part 8: From the Onin War to the Warring States Period

§ 1 Onin War

After the death of Ashikaga Yoshimitsu, the third Shogun, who held a strong grip on power, the local feudal lords began to increase their power, and the 6th Shogun, Ashikaga Yoshinori, was assassinated by an influential feudal lord, leading to revolts(一揆” ikki”) in various regions. The struggle for power among the influential guardian lords intensified.

Against this backdrop, Ashikaga Yoshimasa, the 8th shogun, failed in his attempts to consolidate shogunate power, and social turmoil grew even greater as he lost interest in politics. The succession dispute between his younger brother Yoshimitsu, who was nominated as the next shogun, and his child (Yoshinao), who was born after his nomination, resulted in a major conflict that split the Shogunate in two. This conflict is referred to as the Onin War(応仁の乱 “Onin no Ran”).

§ 2 Warring States Period

The Onin War, which lasted for 11 years and centered on Kyoto, left much of the city burnt to the ground and the shogunate and its shoguns without power over the whole country. Meanwhile, conflicts spread throughout the country, with those of lower rank overthrowing their masters (such as the guardian lords) by force of arms and taking direct control of the land and people themselves. When a person of lower rank overcame a person of higher rank to gain power, it is called gekokujo (下剋上), and the period of about 100 years during which the struggle for power continued is known as the Sengoku period(戦国時代 “Sengoku Jidai”). The feudal lords who ruled their territories by their own power during this period are called Sengoku Daimyo(戦国大名).

While there are many examples of feudal lords who became feudal lords by subjugation, such as Houjou Soun and Mori Motonaga, there are also examples of guardian lords who became feudal lords as they were, such as the Imagawa and Shimazu clans.

In order to stabilize control over their territories (fiefdom rule), warring feudal lords strengthened their military power by increasing industry and adding local samurai to their vassalage. They also formed castle towns(城下町 “Joka machi”) by gathering vassals and merchants to live around their castles. Some feudal lords created laws called "bunkoku-ho 分国法" (laws of warring states) that applied to the territory they ruled.

第8回 从应仁之乱到战国时代

§1 应仁之乱

在掌握强大权利的第三代将军足利义满死后，各地守护大名的力量得到了扩展。第六代将军足利义教遭到强有力守护大名的暗杀，以及各地对统治的抵抗（起义）（一揆）等持续的动荡中，幕府和将军的统治逐渐削弱，有实力的守护大名之间的势力争夺愈演愈烈。

在这样的背景下，担任第八代将军的足利义政试图强化将军权力，但因失败而失去对政治的关心，这进一步加剧了社会动荡。并且，被指定为下任将军的义视（八代将军义政之弟）和指定继承人后所产下的孩子（义尚）之间出现了继承问题，由于各方均与有影响力的守护大名牵扯在一起，导致了幕府被一分为二的大纷争。这场纷争被称为应仁之乱。

§2 战国时代

以京都为中心的应仁之乱持续长达十一年之久，京都的大部分地区被烧毁，幕府和将军失去了对国家的控制权。与此同时，这场纷争蔓延到全国各地，其中身处低位的人以武力推翻他们的主人（守护大名等），自己直接控制了土地和人民。当身处低位的人战胜身处高位的人从而获得权力时，就被称为下克上。持续了约一百年间的下克上的纷争被称为战国时代（戦国時代）。这一时期依靠自己的力量统治领地的大名被称为战国大名（戦国大名）。

虽然有很多如北条早云、毛利元就等通过下克上的手段从而成为战国大名的例子，但也有原本就是守护大名的今川氏、岛津氏那样的战国大名的例子存在。

战国大名通过繁荣工商业以及将诸侯中增加地方武士吸纳为家臣的方式来强化军事力量，以稳定自己对于领地的统治。同时，将家臣和工商业者聚集在城堡周围居住，形成城下町。也有一些战国大名制定了在自己统治的领地内适用的被称为分国法的法律。